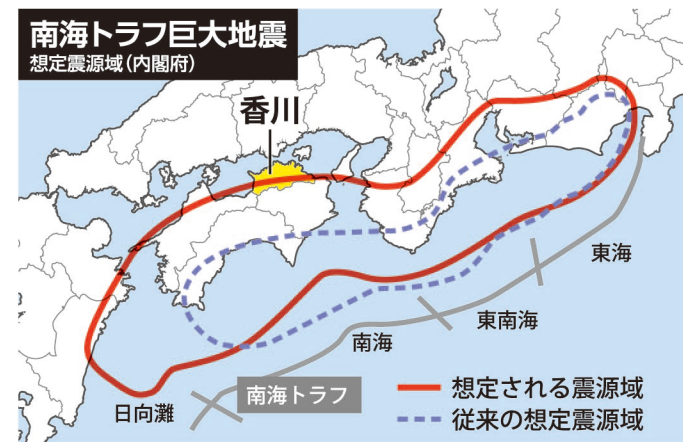


まんのう町で想定される地震

東南海・南海地震とは、紀伊半島沖から遠州灘にかけての海域（通称南海トラフ）周辺で周期的に発生する海溝型地震です。最近のものとしては1944年におこり、歴史的にみても100年～200年周期で発生しており、今後30年間の発生確率は70%以上といわれています。香川県は広範囲で甚大な被害が予想され、警戒が必要です。我が国は1995年の阪神・淡路大震災以降、「地震の活動期」に入っており、近い将来発生が予想される南海トラフ巨大地震と内陸直下型地震への備えが叫ばれています。



平成28年(2016年) 熊本地震

平成28年(2016)4月14日21時26分、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード 6.5 (最大震度 7) の地震が発生し、その約28時間後の4月16日1時25分、同じ熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード7.3 (最大震度 7) の地震が発生し、地震活動域は熊本県阿蘇地方や大分県中部にまで拡大しました。最大震度1以上を観測する地震の回数は最初の震度7の地震から5か月後までに4,000回を超えるなど、地震活動は広域で極めて活発となり、熊本県を中心に甚大な被害が生じました。

死者 (災害関連死含)	272 名
負傷者	2,808 名
住家被害 全壊	8,668 戸

出典先／消防庁応急対策室 平成30年10月15日13:00時点集計



熊本県上益城郡益城町 平成28年4月23日
写真提供：国土交通省 九州地方整備局

まんのう町では大部分が震度6弱です！

最大震度 **6 強**

震度は、地面の揺れの大きさを表した指標値

建物被害 全壊 (冬18時)

290 棟

人的被害 (死者：冬深夜)

20 人

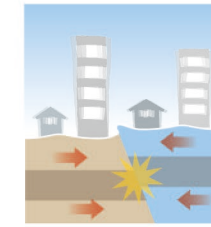
江畑断層

震度6弱 震度6強

地震の種類は？ 内陸型地震とプレート境界地震の2種類があります

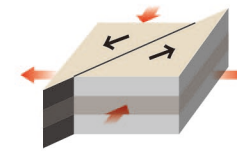
内陸型地震

活断層で起こる地震で、震源の深さが20km以内と浅く、震源の真上の地上は激しい縦揺れに襲われます。活断層のある場所は、どこでも起こる可能性があります。

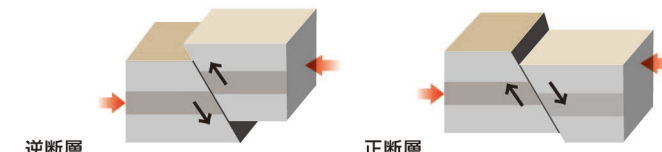


内陸直下型地震

横揺れ地震：断層が左右に揺れる
(例：1995年阪神・淡路大震災)



縦ずれ地震：上下に食い違う



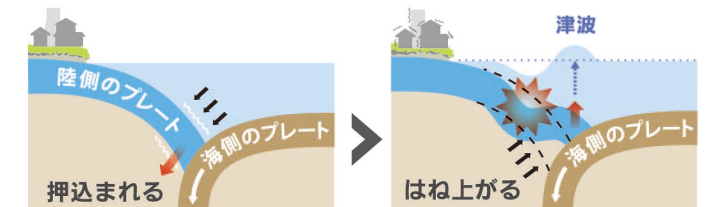
逆断層

正断層

地下の岩盤に、押し合う力や引っ張り合う力が加わることで、内部にひずみのエネルギーが溜まり、これが限界に達したときに、ある面（活断層面）を境にずれ動き、直下で地震が起こります。海溝に沈むプレート内でも同じ現象が起こります。

プレート境界(海溝型)地震

プレート同士の衝突によっておこり、被害範囲が広域に渡り、長い揺れに見まれ、津波が発生することもあります。
(例：2011年東日本大震災)



海側プレートが陸側プレートの下に潜り込むことで、境界にひずみエネルギーが溜まり、これが限界に達したときにプレートがもとに戻る力ではね上がり、地震が起こります。
(押し込まれるときにも内陸側で地震が起きます)

もたらされる被害 地震がおきたらどんな被害があるのか

建物倒壊・家具転倒



液状化

地下水を含む水が強い揺れで泥水のような現象です。地盤の上の建物が傾いたり沈んだりします。



出火・延焼

同時に多くの場所で発生し、延焼火災に発展しやすい。



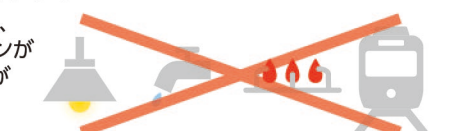
土砂災害

地盤が弱いところでは起こりやすい。

土砂災害のページへ **P12**

ライフラインのストップ

電気や水道、ガス、通信、交通などのライフラインが機能を失い、地域全体が孤立します。



マグニチュードと震度について

地震を表わす「マグニチュード(M)」は、「地震エネルギーの大きさ(規模)」を、「震度」は「地面のゆれの強さ」を示します。「マグニチュード=エネルギー」が大きくても、震源が遠い、深い場合は「震度=ゆれの強さ」が小さくなります。逆に「マグニチュード」が小さくても、震源が近い、浅い場合は「震度」が大きくなります。

マグニチュードが1増えると地震のエネルギーは

